

## 2017年度卒塾生 先輩後輩

秋。各中学校は文化祭の時期です。今年も有り難いことに私はお邪魔させていただきましたが、その中での吹奏楽部の演奏を聴きながら、昨年のある卒塾生を思い出していました。

彼女が入塾してきたのは1年の1学期の途中。部活は吹奏楽部でした。このころから部活には全力で取り組んでいて、練習のやり方などにも一年生ながらも自分の考えをきちんと持ち、誰に対しても思ったことをはっきりと伝える子でした。一生懸命やりたい、うやむやにはしたくない性格のため、やり方をめぐって仲間とぶつかることも。“真剣にやっているなあ”と、時々話してくれる部活での様子から、私は彼女をほほえましく見守っていました。

中2になって、塾内にも同じ吹奏楽部の後輩が入ってきました。ある日のことです。私に「こんにちは。」とあいさつしながら教室に入ってきた1年生の子が、再び大きな声で「こんにちは。」と別の方向を向いてあいさつしました。「ん？誰にあいさつしたのかな。」と思ってその先を見ると、そこには彼女が。その後も一人だけではなく、他の全ての後輩たちが彼女を見かけるたび、どんな遠くからでも大きな声であいさつをすることが塾内の日常の風景になりました。そんな様子に私など「○○ちゃん、どんだけこわい先輩なの。」と笑って茶化していましたが、心の中では“きちんと先輩としての威厳を保っているんだなあ。”と感心していました。

中3になり、彼女は副部長としてますます熱心に吹奏楽に取り組み、みんなを引っ張ってきました。そして、夏。いよいよ今まで頑張ってきた集大成とも言えるコンクールが迫りました。塾では夏季特訓の真っ最中です。学校での部活練習と塾での3時間半の授業。それに加えて翌日の確認テスト(5科目分)のための家での勉強も毎日必要です。そんな過酷な日々の中、彼女は驚くべきことをやりました。それはコンクール当日のこと。後輩たち一人一人に彼女は便箋1枚にびっしり書いた手紙と、手作りのプラ板を渡したのです。そのプラ板には後輩の名前とその子の演奏する楽器の絵、そして部のスローガンである「一音入魂」の文字が描かれていました。50人を超える後輩、その一人一人に心のこもった手作りプレゼントを手渡したのです。どれだけ時間がかかったことでしょうか。何日かかったことでしょうか。みんなで心を一つにして演奏するために、彼女はできうる限りの時間を使って自分の思いを伝えたのです。厳しくも温かい先輩でした。塾の後輩は今でもそのプラ板を大切に持っています。

彼女は今、明和高校で吹奏楽部に入り頑張っています。仲間たちとどんな音楽を奏でていることでしょうか。彼女の音色はまっすぐ芯があり、温かく情熱的であるにちがいません。